

## 鴨川市男女共同参画推進審議会平成25年度第2回会議 会議録

日時：平成25年10月22日（火）  
午後1時30分～3時00分  
場所：市役所7階会議室

### [委員出席者]

氏名	備考
上村 美智代	副会長
黒川 洋子	
立野 慶子	
角田 佐智子	
永井 佳美	
速水 昭雄	会長

(アイウエオ順・敬称略)

### [事務局]

所属・職	氏名
鴨川市企画政策課 課長	杉田 至
鴨川市企画政策課 政策推進係 係長	藤代 公貴
鴨川市企画政策課 政策推進係 副主査	鈴木 身和子

### [会議資料]

- ・次第
- ・席次表
- ・出席者名簿
- ・資料10 男女共同参画セミナーの開催結果について
- ・鴨川市男女共同参画推進審議会平成25年度第1回会議 会議録

---

## 1 開会（午後1時30分） 司会 企画政策課 課長 杉田

配布資料の確認に続いて、現時点までに傍聴の申込がない旨及び「鴨川市男女共同参画推進審議会設置要綱」（以下、「設置要綱」という。）第5条第3項の規定に基づき、本日の会議が成立している旨を説明。

## 2 会長あいさつ

（要旨）

皆さんこんにちは。本日の会議では、9月28日に開催した「男女共同参画セミナー」（以下、「セミナー」という。）の開催結果に係る報告が主となる予定だが、貴重な機会であるため、委員の皆様からの提案があれば、それを議題としたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

## 3 議事

設置要綱第5条第1項の規定により会長が議長として進行。

議事録署名人としては、黒川委員、永井委員が指名された。

### 議事1 男女共同参画セミナーの開催結果について（資料10）

事務局から、9月28日に本市で開催したセミナーについて、概要及び参加者アンケートの結果等を委員に報告。

委員の意見等については、以下のとおり。

（議長）

セミナーに参加されていない委員もいるが、気が付いたことや、今後市民に対して実施すべき取組みなど、自分の考えや感想を一言ずつでもお話ししたい。

（黒川委員）

女性消防隊の隊員として、災害時においては、リーダーシップを持って女性へのケアができるよう、また、市民の役に立てるような訓練を実施していきたい。

（立野委員）

今現在もどこかで災害が起きている現実があり、タイムリーなテーマであったと思う。東日本大震災発生後の現地の様子を伺って、避難所が女性にとって非常に生活しづらい場所であることがよく分かった。日頃の備蓄の揃え方については、非常食ではなく日常で使用する食料を多めにストックしておくことで、継続的に備蓄品を購入することが可能であると教わり、自分自身の防災対策について見直すことができた。

また、参加を呼び掛けた方から、今回の講演を聴講できたことに対する感謝の言葉を頂いた。

(角田委員)

セミナーには参加していないが、資料を読んで、市民の防災意識が高まっている時にこのようなセミナーの開催がなされ、参加者が関心を持って聴講していた様子が感じられた。

(永井委員)

私も参加はできなかったが、資料を読んで、女性にとって避難所は大変厳しい環境であることが分かった。

(上村委員)

知らないことがとても多いことを実感した。災害が発生した場合を想定して、自分達がどういう所に住んでいるのか、地域は安全であるかを見直し、防災に対する高い意識を持つことが必要となる。

(議長)

これまで男女共同参画に携わってきていながら、いかに女性の立場で物事を考えていなかったかを痛感した。講師は、女性の立場で災害・防災対策に関わり、様々なことを実践しておられるので、その内容は非常に説得力のあるものだった。

私が今まで聴講した防災関連の講演の中でも、特に優れた内容であったと感じたため、今後も機会があれば、多くの方に国崎氏の講演を聞いてもらいたい。

(事務局 藤代)

国崎氏の年間講演数を確認したが、1年間で300件の講演を行うと聞いた。その中で、講演依頼日が重複するなどして依頼を断る場合もあり、実際引き受けられる割合は3割程度とのこと。大変人気のある講師で、本セミナーについても相当以前から依頼をしていた。日程についても、講師の都合に合わせる柔軟な対応が可能だったため、本セミナーを実現できたものと考えている。

(黒川委員)

私が講演を聞いて得心したこととしては、地震によって家の中の家具が想像を超えて大きく動くこと、怪我をした時のために救護用品が必要になること、置き場によっては非常持出袋が活用できないかもしれないことなどが挙げられる。自分が非常持出袋に簡易な救護用品だけを入れていたことに気づき、止血用の包帯などの救護用品をすぐに買い揃えなければならないと思った。

(議長)

災害時であっても自分は健康で怪我もなく、2・3日過ごすための用意をしておくというのが、現在の一般的な防災対策であると思う。

先日の伊豆大島の水害被害の状況を見ていて、発生が突発的で時間帯も悪かったとは思いますが、被害は予め想定されていたはずなのに、多くの方が逃げられなかった。現実的な想定があったとしても、それに基づく訓練が実施されていなければ意味がないことを痛感し

た。

講演の内容等について、事務局からも何か意見等はないか。

(事務局 杉田)

災害現場で起こる犯罪について、子どもが3秒で連れ去られてしまうなどの犯罪が本当に起こるという事実を改めて認識した。平和な社会を享受している日本人でも、災害が発生し、被災者という立場に置かれれば、どのような危険に晒されるか、人格まで変わってしまうような精神状態に陥ってしまうかもしれない。避難所での生活においては、このような認識を皆が予め共有していなければならないと考える。講演内容は厳しいものだったが、個々の危機管理意識を向上させる、非常に重要な内容であったと思う。

なお、伊豆大島の例について言えば、先日、本市においても台風の直撃を受けたところであるが、こうした場合に、どの時点で避難勧告を発令するのか、付近の住民に注意喚起すべきかどうかの判断の重要性を改めて認識させられた。

(議長)

災害現場で起こる連れ去り等の事件については、報道はされず皆も知らないことである。日本人というのは、自身の周囲で犯罪は起こらず、安全であるという安心感が強すぎるのではないかと思う。皆がパニック状態となる中で、どのような犯罪が発生するのか、今回の講演によって初めて知ることができた。

(上村委員)

災害時において、国際的な集団組織が子どもを連れ去る目的については、過去は売春や人身売買であったが、現在は臓器売買であると教えていただいた。海外のニュースとしては認識していたが、日本でも起こる可能性があるということを認識しておかなければならない。

(議長)

避難所での窃盗事件についても教えていただいた。避難される方々は、お金や宝石等の貴重品を避難所に置くこととなるが、それらを寝ている間に盗まれてしまうこともある。避難所で生活する場合、窃盗などの犯罪は必ず起こることと認識しておく必要がある。

(黒川委員)

避難所において、両親の隣りで寝ている子どもが暴行されるという話は本当に怖いと思った。避難所は安全ではないということを痛感した。

(上村委員)

被災地の実際の状態が分かり、自分の子どもがボランティアで支援に行きたいと言っても、危険が多いので行かない方がいいと思ってしまう。

(議長)

避難所というのは、善意で支援をするために来ている方達や人を頼らなければならない方達など、多くの立場の方々が出入りする場所であるため、隙が多くなるのだと思う。避難所だから安心であるという考えは持たないようにする必要がある。

講演の内容については、委員が皆同じような認識を持たれたのではないか。委員の意見や感想は出尽くしたように思うがいかがか。

(黒川委員)

最後に一点だけ。男女共同参画の観点から、避難所における女性の問題については、今後の防災対策の中で検討すべき課題である。避難所の一角だけでも女性専用の場所を確保するなど、女性に配慮した対策が必要だと感じた。

(議長)

何年間か本審議会の委員として携わってきて、今後は、各部署の取組みに活用していただくため、本審議会の意見や提案等を伝えていくことも考えていきたい。

## 議事 2 その他

事務局から、12月1日に本市で開催する婚活支援事業について、開催の趣旨及び概要、参加者募集に関する経過報告を行った。

委員の意見等については、以下のとおり。

(議長)

私達の職場でも、女性の方達に本市に永住してもらいたいと考え、何度か婚活イベントを実施したが、企画者が参加者であったため、次回以降の継続的な実施には至らなかった。結婚希望者が多くても、他職種の方と出会う機会が少ないと感じる。機会を増やすために毎年開催とするなど、継続的な実施を検討していただきたい。

(黒野委員)

現時点で何名程度の応募があるのか。

(事務局 杉田)

定員50名に対して応募は10名に満たない。このような募集は、すぐに応募を決断できるものではないと思うが、ぜひ、多くの市民に参加いただき、定員の50名でイベントを実施したいと考えている。

なお、今回事業に参画いただく婚活支援専門の会社には、イベント当日の司会進行についても依頼しており、この機会に、このようなイベントにおける場の盛り上げ方や進行の仕方等を学ばせていただきたいと考えている。

(議長)

実行委員会の方も、このようなイベントについては素人であると思うので、プロの方のノウハウをぜひ勉強していただきたい。今後事業を継続するためには人材を育てていく必要がある。

本市における初の婚活支援事業であるため、市民に十分浸透していないかもしれないが、万一、定員に満たない人数であっても、事業の実施自体に意義があり、次回は50名、その次は100名を集めるなど、段々と増やしていければ良い。

(事務局 杉田)

当初、各方面への説明時には、定員の50名について少ないとする反応もあったが、財政的に非常に厳しく人口も大幅に減少しているある自治体を例に挙げると、そこでの婚活の取組み状況は、1週間に3回程度、5対5、3対3の人数であっても実施しているとのことであった。その細やかな取組みにも驚いたが、このような事業は、本当に地道に積み重ねていくことが重要であると考えている。

(議長)

若い方達が地元に残ってくれるよう、長期的な展望を持ち、継続的な政策として実施をお願いしたい。

さて、今年度における本審議会の開催は今回が最後となるが、今年度事業の実績報告はいつになるのか。

(事務局 杉田)

委員の皆様にもご意見をいただき策定した実施計画書に基づき、今年度分の事業実績をまとめた上で、来年度においてご検証いただくこととしたい。このため、来年度においても定例的に数回の会議を開催することについて、委員の皆様にご依頼申し上げたい。

(議長)

本審議会は来年度も継続し、今年度事業の検証をしたいと思う。

(事務局 鈴木)

来年度の会議日程については、決定次第、委員の皆様にご連絡したい。

(黒川委員)

市民意識調査の実施はいつ頃となるのか。

(事務局 杉田)

市民意識調査については、男女共同参画計画又は実施計画の策定時、或いは計画策定から数年経過して検証する際の実施を予定していることから、少なくとも3年に1回程度は実施することとなる。

(議長)

市民意識調査については、毎年実施しても結果に大きな変化はないと考えている。具体的な日程は決定していないが、主に本計画策定時に実施するとの認識で良いと思う。

(上村委員)

婚活支援事業について、一点だけ申し述べたい。自分の周囲にシングルマザーの方がおられるが、市はシングルマザーの方達の情報について把握可能なのか。その方達への支援を検討する必要があると思うが。

(事務局 杉田)

市では、様々な個人情報を把握しており、シングルマザーの方達を対象とした婚活支援事業についても可能とは思いますが、その方達に限定しての募集については難しいように思う。今回の事業では、対象者を独身男女としているため、実際にはシングルマザーの方達も対象となっている。母子家庭、父子家庭の支援については、所管を福祉課としているが、今後の重要な課題の一つと認識している。

(議長)

確かに取扱いは難しいと思うが、こうした方達が抱える課題などを把握していくだけでも良いと思う。様々な問題を抱える方達が相談することのできる市の窓口などは、依然として不足しているように感じる。男女共同参画の取組みは非常に広範囲となり個々の事業が掴みづらいが、その中で掘り下げる必要があるものについて、本審議会から提言していくことができると考えている。

#### 4 閉会（午後3時00分）

以上

---

鴨川市男女共同参画推進審議会

会長 速水 昭雄 様

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により議事録の内容について確認します。

平成25年12月24日

\_\_\_\_\_  
永井 佳美

\_\_\_\_\_  
黒川 洋子